

中学校第2学年2組 保健体育科授業案

平成24年11月22日
場所 附属中体育館
授業者 秀島 邦治

【キーワード】ICTの利活用(学習支援ソフト、デジタルカメラ、タブレットPC) 集団演技づくり 学び合い

1 単元名 跳び箱運動

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ① 技ができる楽しさや喜びを味わいながら、身につけた技をグループで組み合わせて、集団で演技ができるようにする。
- ② 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、仲間のよい演技を称賛したり、分担した役割を果たそうとすることや健康・安全に気を配ることができるようにする。
- ③ 跳び箱運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

(2) 単元の評価規準【学力デザイン レベル3】

- イー1 ICTを利活用し、技の合理的な動き方のポイントを見つけたり、仲間のよい動きや悪い動きなどを指摘したりしている。【思考・判断】
- ウ 切り返し系や回転系の基本的な技や条件を変えた技、発展技を身につけ、それらの技を構成し、集団で演技することができる。【技能】
- ア 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、仲間の努力や良い演技を認めようとしている。また、分担された自己の役割を果たし、健康・安全に気を配ろうとしている。【関心・意欲・態度】
- イー2 課題に応じて、技の習得に適した練習方法を学習資料の中から選んでいる。【思考・判断】
- エ 跳び箱運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。【知識・理解】

3 単元を貫く問い

「跳び箱運動の楽しさとは？」

4 生徒の実態（アンケートより）

- ・ 跳び箱運動が「好き・どちらかといえば好き」と答えた生徒が26名、「嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた生徒が13名おり、約7割の生徒が跳び箱運動を好意的に受け入れている。
- ・ 技のできばえの確かめ方については、自分で判断する(9名)、友だちから見てもらう(28名)、先生から見てもらう(11名)、学習ノートを見て判断する(2名)、撮影した動画を見て判断する(20名)であった。
- ・ 学習にとまどっている友だちに対しては、21名の生徒が「関わりをもちたい」と答えているが、「関わりたいが自信がない」と答えている生徒も13名いる。関わり方については、ことばでやり方やポイントを教える(7名)、補助をしてやる(12名)、やって見せる(3名)、ICTを活用してアドバイスする(4名)であった。
- ・ 今回の授業で使用してみたいICTについては、デジタルカメラ(20名)、パソコン(10名)、タブレットPC(9名)、遅延再生装置(4名)、電子黒板(3名)であった。

5 内容

跳び箱運動は、いろいろな跳び方で跳んだり、跳び箱の条件を変えて跳び越したりして楽しむ運動である。一般的には個人的な達成型の運動であり、個人が技の達成を目指すことが中心課題となることが多い。しかし、跳び箱運動には本来、技の習得や質的な向上を目指すだけでなく、多様な楽しみ方が内包されていると考えられる。これらの楽しみ方は、生徒の能力の高まりによって柔軟に扱うべきであると考えられる。そこで、今回の授業では、跳び箱運動の1つの楽しみ方の提案として、集団演技づくりを取り入れる。そのことで、個人では1つの演技だけの発表に終わっていたものが、多様な演技構成もでき、さらに発表会などを設定すれば競技的な楽しみ方も可能になると考え、単元を貫く問いを「跳び箱運動の楽しさとは？」と設定した。集団演技を取り入れる効果は、楽しみ方の拡大以外にも考えられる。例えば、グループ内の個々が互いに刺激し合い、個人では思いつかないようなアイデアが生まれたり、個人ではできなかったことをチームワークで可能にしたりすることや自分の身体操作を仲間の動きと合わせることで、新たな課題が生じ、一層の運動習熟を図ることなども期待できる。その他にも演技構成をグループで話し合ったり、出来ばえを高めたりしながら味わう集団的な達成感、個人では味わえないものであり、集団演技を取り入れることは共同の学びの実現にも迫ることができる。と考える。

6 方法

(1) ICTの利活用

- ① オリエンテーションや導入等で、見本の映像を見せることで、全体的な動きのイメージをつかませる。
- ② 学習支援ソフトの中の技の見本となる動画を見て、技のポイントやコツについて話し合う。
- ③ 個人や集団の動きを撮影し、お互いにそれを見ながら、よい動きや悪い動きについて指摘し合う。

(2) 言語活動

- ① より良い集団演技にするために、演技の内容や構成の仕方、修正点について話し合ったり、説明したりする。
- ② より良い動きにするために、見本の動き(動画)と仲間や自分の動きを比較し、動きの修正点について説明する。

③ めあての達成状況や課題を明確にするために、活動を振り返り、発見した動きのポイントやコツ、修正点などを自己評価表にまとめる。

7 単元の指導過程（全8時間）

過程	課題と内容 【言語力の要素】	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	1 オリエンテーション ・ 跳び箱運動の学習のねらいと進め方について知る。 ・ グループ編成・役割分担を決定する。	0.5	(1)-1 学習の進め方を理解させて、見通しを持たせる。	エ 跳び箱運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などについて、学習した具体例を挙げている。【観察、ワークシート】
	2 持ち技調べをする。	0.5	(1)-2 跳び箱の集団演技に関するビデオを視聴させ、これからの学習への関心・意欲を高める。 (2) 持ち技調べを行い、これまでの跳び箱運動の学習で身につけた技能を確認させる。	
問い:跳び箱運動の楽しさとは？				
展開	めあて1 今できる技で、仲間と協力し、タイミングや構成を工夫しながら、集団での演技づくりを楽しむ。			
	3 活動をする。 【①説明する】【②話し合う】 【活動例】 ・ 2人でタイミングを合わせてかえ込み跳びの練習	6 本時 4 ／ 6	(3)-1 めあてに沿った活動になるように支援する。 (3)-2 安全に配慮した場づくりや練習方法を工夫させる。 (3)-3 グループで協力して活動しているか観察し、支援する。 (3)-4 うまく動きが作れていないグループには、集団演技づくりのデザインカードをもとに、演技作りについて支援する。 (3)-5 自分たちの動きを客観的に見て、課題を見つけることができるように撮影した動画を活用させる。 (4) 振り返りの中からグループの演技や個人の目標や課題を修正することができるように促す。	ア 安全に留意し、グループで協力しようとしている。【観察】 ア よい動きや演技を認めようとしている。【観察】 ウ 基本的な技や発展技を組み合わせ、集団で演技することがができる。【観察・チェック表】 イー1 撮影した動画を活用し、集団演技の修正点について指摘し合っている。【観察・対話】
	4 活動を振り返る。 【⑩振り返りをする】			
めあて2 技の系統図に従い、練習の仕方や場を工夫しながら、今できる技のできばえを高めたり、できそうな技へ挑戦したりして楽しむ。				
5 活動をする。 【①説明する】【⑮比較する】 【活動例】 ・ 跳び箱の上にマットを置いて台上前転の練習		(5)-1 自分にあつためあてをもてない生徒に支援する。 (5)-2 安全に配慮した場づくりや練習方法を工夫させる。 (5)-3 何回も繰り返し挑戦しているか観察し、支援する。 (5)-4 技のイメージがつかめていない生徒には、学習支援ソフトを活用させる。 (5)-5 つまずいている生徒には、学習支援ソフトや撮影した動画を活用するように支援する。 (5)-6 難易度の高い技に挑戦している生徒には、場づくりや補助の仕方を指導し、安全面に配慮させる。	ウ 基本的な技や条件を変えた技、発展技ができる。【観察・チェック表】 ア 自分の役割を果たし、安全に気を配ろうとしている。【観察】 イー2 自分のめあてに応じて、学習資料の中から練習方法を選んでいく。【観察】 イー1 学習支援ソフトや撮影した動画を活用し、動きの良い点や悪い点について指摘し合っている。【観察・対話】	
6 活動を振り返る。 【⑩振り返りをする】		(6) 学習カードや仲間とのかかわりの中から自己評価できているか、観察し支援する。		
7 グループごとに演技を発表する。		(7) グループごとに学習の成果を発表させ、仲間のよい動き方やよい演技を称賛するように支援する。	ア 仲間の発表を称賛している。【観察・対話・ワークシート】	
展望	8 全体の学習を振り返る。 【⑩振り返りをする】	0.2	(8) 全体の学習を振り返ることで、技能の伸びや意識の変化に気づかせる。	

8 本時の授業

(1) 本時の指導目標

ICT を利活用し、技の合理的な動き方のポイントを見つけたり、仲間のよい動きや悪い動きなどを指摘したりするなど、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

(2) 本時の評価規準

イー1 撮影した動画を活用し、集団演技の修正点について指摘し合っている。【思考・判断】

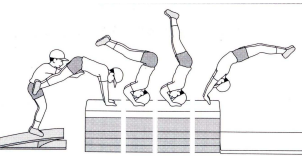
イー1 学習支援ソフトやデジタルカメラ、タブレットPC等を活用し、動きの良い点や悪い点について指摘し合っている。【思考・判断】

(3) 本時に期待する生徒の学び

① 集団演技づくりで、演技の内容や構成の仕方、修正点について積極的に意見交換をしている。

② 学習支援ソフトやデジタルカメラ、タブレットPCを活用し、良い動きや悪い動きについてお互いに指摘し合っている。

(4) 本時の授業過程 (5 / 8 時間)

過程	学習活動と内容 【言語力の要素】	形態	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	1 学習の場を準備する。 2 準備運動をする。 3 本時のめあてと活動内容を確認する。	G ↓ G ↓ G 斉	(1) グループで協力して準備させる。 (2) 跳び箱運動につながる運動遊びを準備運動として取り組ませる。 (3) 学習ノートをもとに、めあてと活動内容を確認させる。	
課題:ICTを利活用し、個人や集団の動きの修正点について指摘し合おう。				
展開	めあて1 ○ 今できる技で、仲間と協力し、タイミングや構成を工夫しながら、集団での演技づくりを楽しむ。			
	4 活動する。 【①説明する】【②話し合う】 【活動例】 ・ グループでタイミングを合わせて連続開脚とび 	G ↓	(4)-1 安全に配慮した場づくりを工夫させる。 (4)-2 活動が停滞気味の班には、演技の構成や修正点について支援する。 (4)-3 演技を動画で撮影し、できればえの状況を確認するように支援する。	イー1 撮影した動画を活用し、集団演技の修正点について指摘し合っている。 【観察・対話】
展開	めあて2 ○ 技の系統図に従い、練習の仕方や場を工夫しながら、今できる技のできばえを高めたり、できそうな技へ挑戦したりして楽しむ。			
	5 活動する。 【①説明する】【⑤比較する】 【活動例】 ・ セーフティーマットを使って頭はね跳びの練習 	G 個 ↓	(5)-1 安全に配慮した場づくりや練習方法を工夫させる。 (5)-2 何度も挑戦しているか、観察し支援する。 (5)-3 つまずいている生徒には、学習支援ソフトや撮影した動画を活用するように支援する。	イー1 学習支援ソフトや撮影した動画を活用し、動きの良い点や悪い点について指摘し合っている。 【観察・対話】
展望	6 本時の活動を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。 【⑩振り返りをする】	斉 ↓	(6)-1 お互いの頑張りを評価し合い、称賛していくようにする。 (6)-2 今後の課題や活動について確認し、見通しを持たせる。	